長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第８集

長崎県埋蔵文化財調査年報20

［平成23年度調査分］

２０１３

長崎県教育委員会

はじめに

埋蔵文化財は、地域における先人達の歴史や文化を物語るものであり、国民共有の財産であります。それはまた歴史的・文化的資産、教育的資産としての意義を持ち、地域づくり、ひとづくりに活用できる格好の財産といえます。

長崎県には、国特別史跡の原の辻遺跡をはじめ、3,800ヶ所を越える多くの埋蔵文化財があります。これらは私たちが遠い祖先から受け継いだ貴重な遺産であり、後世の人々に伝えるため保存するとともに、広く活用を図っていく必要があります。

しかしながら、埋蔵文化財は公共事業や民間の開発行為によって破壊されたり、消滅したりする恐れがあります。そのため長崎県教育委員会では、埋蔵文化財の保護を目的として開発部局と事前に協議を行い、事業計画の変更のお願いや、やむを得ず計画の変更ができない場合は記録保存のための発掘調査を実施しています。

本書は、平成23年度に長崎県教育委員会が県下各地で実施した埋蔵文化財の発掘調査と遺跡、遺物の保護・保存・活用のために行った文化財保護行政に係る事業概要を紹介するものです。

本書の刊行が、本県埋蔵文化財保護行政の更なる発展と、県民の皆様の埋蔵文化財への愛護意識の向上に貢献できますことを期待します。

平成25年3月31日

長崎県教育委員会教育長

渡辺　敏則

例　　言

1　本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が平成23年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。

2　調査概要の遺跡位置図は、国土地理院発行の1/25,000の地図を使用している。

3　１項の執筆分担担当者は目次に（　　）で記載した。

4　各遺跡の調査担当者および概要執筆の文責は、各遺跡の概要の文末に記している。

5　本書の編集は長崎県埋蔵文化財センター調査課が行った。

本　文　目　次

はじめに

1．長崎県の埋蔵文化財保護行政に現状

（1）本県における公共事業に伴う発掘調査の現状（寺田）……1

（2）本県の埋蔵文化財保存活用事業（寺田）……1

（3）長崎県埋蔵文化財センターの事業

① 発掘調査事業（町田）……3

② 保存処理事業（片多）……4

③ 教育普及事業（林・田口）……4

④ 東アジア考古学研究事業（古澤）……6

（4）佐世保文化財調査事務所の普及啓発事業（杉原）……9

2．平成23年度に県教委が発行した埋蔵文化財発掘調査報告書一覧（吉井）……10

3．平成23年度に県内市町教委が発行した埋蔵文化財発掘調査報告書一覧（吉井）……10

4．平成23年度事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財担当職員数の推移（林）……12

5．平成23年度長崎県における発掘調査の履歴（林）……13

6．平成23年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

（1）原の辻遺跡〔範囲確認〕（古澤）……14

（2）尾和谷城跡〔本調査〕（町田）……16

（3）岸高遺跡〔範囲確認〕（川畑）……17

（4）竹松遺跡〔試掘・範囲確認〕（今西）……18

（5）竹松遺跡〔本調査〕（今西）……19

（6）久留里遺跡〔範囲確認〕（宮武）……20

（7）久留里遺跡〔本調査〕（町田）……21

（8）葛瀬遺跡〔試掘・範囲確認〕（林）……22

（9）今福遺跡〔本調査〕（杉原）……24

（10）中之館跡〔範囲確認〕（村川）……26

1．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

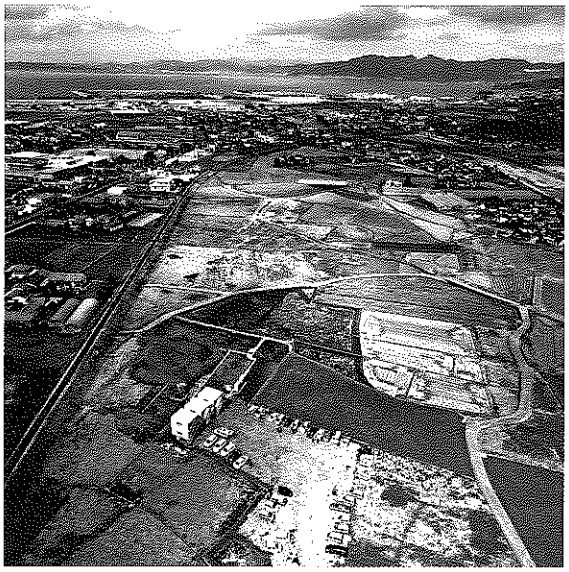
（1）本県における公共工事に伴う発掘調査の現状

現在、本県では九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設工事に伴った発掘調査が本格化しつつある。平成21年10月末に実施した分布調査により13遺跡26ヶ所（試掘10ヶ所・範囲確認調査13ヶ所・本調査３ヶ所）で事業着手前に調査が必要であることが確認されている。特に、大村市内竹松遺跡周辺では新幹線の路線と同時に保守基地が予定されており、約９万㎡の面積を対象とする確認調査が必要である。調査は、用地買収の進捗にあわせて順次実施しているが、竹松地区の用地買収はほぼ完了しているため、平成23～25年度で試掘・範囲確認調査、平成23～26年度で本調査を実施する予定である。

平成23年度の調査としては、鈴田トンネルの出口部分にあたる諫早市尾和谷城跡の発掘調査を、平成22年度から継続して約1,600㎡で実施した。調査地点は、標高55～80の傾斜地に位置するところであり、遺構はあまり確認されなかったが、旧石器時代から近世にかけての石器や土器、陶磁器などが出土している。同トンネルの入口部分に当たる大村市岸高遺跡の範囲確認調査では遺構・遺物は確認されなかった。

また、保守基地が予定されている大村市竹松遺跡では、試掘・範囲確認調査で埋蔵文化財が確認された工事予定範囲の約18,000㎡のうち、1,500㎡の本調査を実施している。主な遺構としては、古墳時代から古代にかけての溝４条と柱穴、井戸跡が確認され、その周辺からは、古墳時代の耳環、古代の貿易陶磁器や緑釉陶器などが出土している。

平成14年度から実施されている西九州自動車道に伴う発掘調査については、平成21年度に佐世保～佐々間の調査が完了し、現在はその主体が松浦市に移っている。平成23年度に調査を実施した今福遺跡では、複数の旧河道跡が確認され、縄文時代から近世にかけて約8,000点の遺物が出土している。また、太郎浦岩陰１～３では14ヶ所の試掘坑を設定し範囲確認調査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。



竹松遺跡調査区航空写真

その他、平成23年度に県教委が実施した発掘調査としては、県公舎売却に伴う中之館跡の範囲確認調査が実施され、古代から中世にかけての遺物が多数出土し、遺跡が残存することが確認された。また、早岐駅車両基地移転計画に係る稗田窯跡隣接地の試掘調査では、６ヶ所の試掘坑を設定したが遺構・遺物は確認されなかった。

（2）本県の埋蔵文化財保存活用事業　～明日につなぐ埋蔵文化財人づくり事業～

○開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修

目　的　(1)開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。

(2)文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

期　日　平成23年５月13日（金）

場　所　長崎歴史文化博物館 ホール

参加者　・県及び市町開発部局担当者

・県及び市町文化財担当者（実務経験３年未満を主体）　計　59名

内　容　・埋蔵文化財諸届に関する確認事項

・埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会からの報告

・埋蔵文化財関係補助金制度の説明

・専門（技術）研修について

○埋蔵文化財担当者専門技術研修

目　的　長崎県下の遺跡から出土した資料の恒久的な保存と活用を行うための基礎的な考え方および技術を習得する。

日　時　平成23年11月１日（火）・２日（水）

会　場　長崎県埋蔵文化財センターおよびカラカミ遺跡　発掘現場

参加者　県内市町埋蔵文化財担当者　計３名

内　容　・木製品の保存処理概説および実習

・金属製品の保存処理概説および実習

・発掘現場における応急処置及び土層の剥ぎ取り作業

・精密分析機器による調査概説

土層剥ぎ取り作業風景

○長崎県市町文化財保護行政担当者会議

目　的　市町文化財保護行政主管課の課長及び担当者に、文化財保護に関する新たな情報や専門的な知識を習得する場を提供し、統一的なテーマを中心に講義・事例発表・討議などを行うことにより専門的な資質を向上させ、本県文化財保護行政の適切かつ円滑な推進を図る。

日　時　平成23年11月22日（火）

会　場　長崎県大波止ビル３－Ｄ会議室、県庁第２別館３－Ｂ会議室

参加者　県及び市町文化財行政担当者　　計　18名

内　容　・鷹島海底遺跡の調査について

・文化財の防犯・防火対策について

・文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業について

・文化財関連の広報・情報発信・イベントの集客についてのグループ協議など

（3）長崎県埋蔵文化財センターの事業

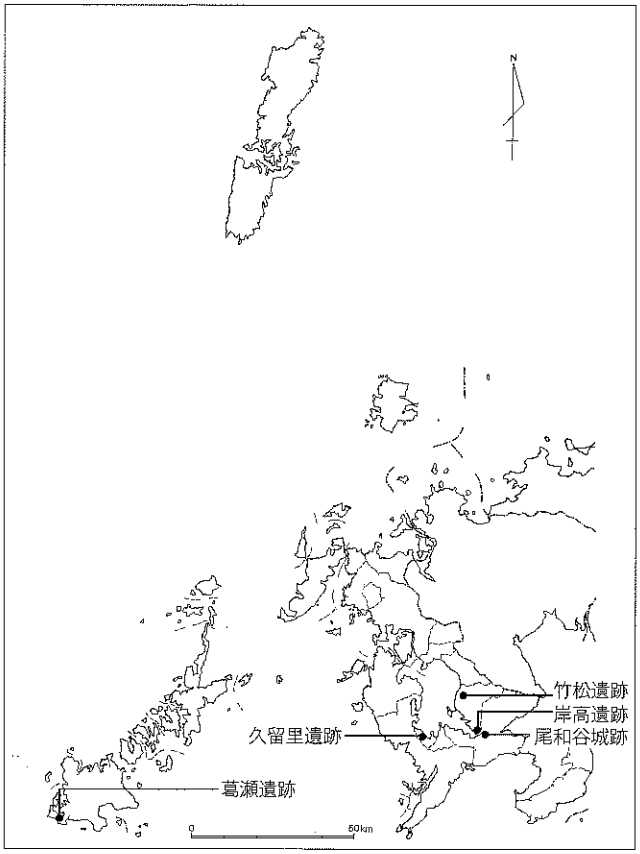
①発掘調査事業

平成23年度の埋蔵文化財センターにおける発掘調査事業は、原の辻遺跡調査研究事業として重要遺構確認を目的に実施した原の辻遺跡範囲確認調査、新幹線建設に伴う発掘調査及び市町支援として、発掘調査を時津町と五島市で実施した。

原の辻遺跡調査研究事業の調査では、柏田･原ノ久保･不條地区の併せて850㎡の調査を実施した。主な遺構・遺物は、原ノ久保地区の土坑から弥生時代後期の甕棺及び旧石器時代の台形石器が出土している。不條地区からは、弥生時代中期の石列、古代～中世の礫群、時期不明の溝を検出し、自然河川跡を２本確認している。出土遺物は、礫群から須恵器、土師器皿、輸入陶磁器の同安窯系皿が出土し、河川跡からは、杭が検出された。

新幹線建設に伴う発掘調査は、①尾和谷城跡、②岸高遺跡、③竹松遺跡の３遺跡の調査を実施している。①の尾和谷城跡の調査は1,594㎡を発掘し、ピット13基、土坑1基、礎石1基などの遺構を検出した。遺物は、旧石器時代のナイフ形石器、土師器甕、土師器皿、瓦質土器、石鍋、輸入陶磁器などが出土している。②の岸高遺跡では、12㎡の範囲確認調査を実施したが、遺構・遺物とも検出されず、本調査の必要なしと判断した。③の竹松遺跡は、範囲確認調査257㎡と本調査1,500㎡を実施した。範囲確認調査で、古代～中世の包含層と弥生時代の包含層を確認した。本調査では、井戸跡等の遺構を検出した。遺物としては、古墳時代の耳環や古代から中世にかけての緑釉陶器、越州窯系青磁碗類、土師器等が出土している。

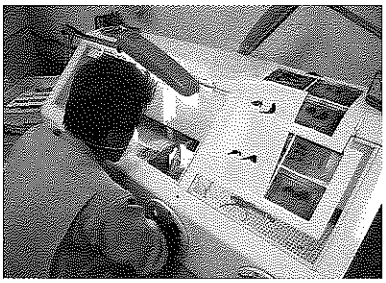
市町支援発掘調査事業は、①時津町久留里遺跡と②五島市葛瀬遺跡の開発事業に伴う発掘調査の支援を実施した。①の久留里遺跡は、宅地開発に伴うものである。範囲確認調査を60㎡実施し、本調査を310㎡実施した。範囲確認調査では縄文時代中期、後期を主体とする遺物包含層を確認したため、開発箇所についての遺跡保存の協議を行った。その結果、設計変更ができない部分について本調査を実施した。本調査は、道路建設予定地の幅約6m×長さ約50m区間が対象である。その結果、縄文時代～中世に至って場の利用が継続していたことを知ることができた。②の葛瀬遺跡は、圃場整備に伴う範囲確認調査として80㎡を実施している。遺物の出土は認められるが、土地造成によって遺物包含層が削平されていたため本調査の必要はないと判断した。遺物は、縄文時代の土器、中世時代の石鍋、江戸時代の寛永通宝等が出土している。



遺跡位置図

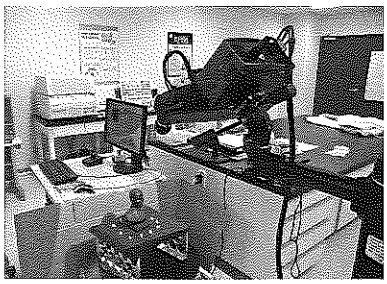
②保存処理事業

長崎県埋蔵文化財センターは平成22年1月に新設された際に、保存処理機器も導入され、平成22年度より国庫補助事業により年間400点を目標に保存処理を行っている。平成23年度は木製品300点、金属製品309点の保存処理を行った。また出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も導入され、金属製品の材質分析や構造調査も行っており、所定の申請を行ったものには外部利用も対応している。平成23年度は福岡市博物館、長崎純心大学、活水高等学校、平戸市教育委員会から利用申請があり、透過X線撮影、蛍光X線分析装置、三次元計測器などの利用があった。



グラインダーによる錆取作業

ＰＥＧ含浸処理作業



三次元計測機

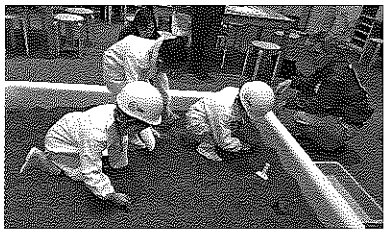
③教育普及事業

＜キッズこうこがく研究所＞

子どもたちが楽しく遊びながら考古学に親しむことができる空間としてキッズこうこがく研究所を運営している。現在の体験メニューは、発掘体験コーナー、こうこがくパズル、ぬり絵、顕微鏡、魏志倭人伝すごろく、などを準備し、定期的に更新している。

【開館（H22.3.14）から平成24年3月31日までの入室者数】

期　　間	子ども	大人	計
H22. 3.14 ～ H22. 3.31	1,868	2,623	4,491
H22. 4. 1 ～ H23. 3.31	15,251	34,506	49,757
H23. 4. 1 ～ H24. 3.31	12,638	28,040	40,678
累　　計	29,757	65,159	94,926



キッズこうこがく研究所　発掘体験

＜オープン収蔵展示＞

埋蔵文化財保護行政に関わる職員の資料活用技術向上と教育普及を目的に、オープン収蔵庫（ガラス張りの遺物収蔵庫）にて遺物展示を行っている。平成23年度は以下の展示を行った。

『色彩別』（白・黄・赤・青緑・黒）平成23年4月1日～平成23年7月31日

『素材別』（石・骨角・木・土・金属）平成23年8月6日～平成23年12月4日

『人の一生』（生まれる遊ぶ・装う・嗜む・弔う）平成23年12月10日～平成24年6月3日

オープン収蔵展示　「人の一生」展

発掘速報展　諫早家御屋敷跡出土品

＜情報誌＞

大人用情報誌として「南北市羅 第2号」を3月に発行した。「南北市羅」は見開き4ページの構成で、センター発掘情報などを掲載した。「南北市羅」はセンターホームページにも掲載している。

また、子ども用情報誌として「キッズこうこがく」を見開き4ページの構成で6月および12月に発刊した。埋蔵文化財センターが運営する一支国博物館内にある「キッズこうこがく研究所」の紹介や、考古学や埋蔵文化財に対して楽しみながら子どもたちの興味・関心を高めることを意図した「マイブンクエスト」などの記事を掲載した。「キッズこうこがく」は県内学校や教育機関、各都道府県埋蔵文化財センターなどの考古学関連機関に配布し、センターホームページにも掲載している。

「南北市羅 第２号」

「キッズこうこがく」

＜ホームページ公開更新＞

ホームページ（http://www.nagasaki-maibun.jp/）には『施設案内』のほか、近年の発掘成果を紹介している『発掘情報』、刊行物やキッズこうこがく研究所のイベントなどを紹介する『イベント情報』、壱岐高等学校での授業や体験学習の様子を紹介する『履歴情報』、収蔵している出土品や精密分析機器の施設利用に関する申請書などを掲載している。

長崎県埋蔵文化財センターＨＰ

＜精密機器で調べてみよう＞

長崎県埋蔵文化財センターでは『精密分析機器で調べてみよう』と題し、年間10回主に小学生を対象とした体験学習を行っている。専門職員や大人に対する説明ではなく、子どもたちでも分かりやすく、また興味を示すようなアイデアを盛り込み、各機器の特性を活かした工夫をこらしている。身近なものを精密機器を用いて観察、分析することで得られる情報から、埋蔵文化財センターの仕事内容や成果の普及活動に努めている。

精密分析機器で調べてみよう

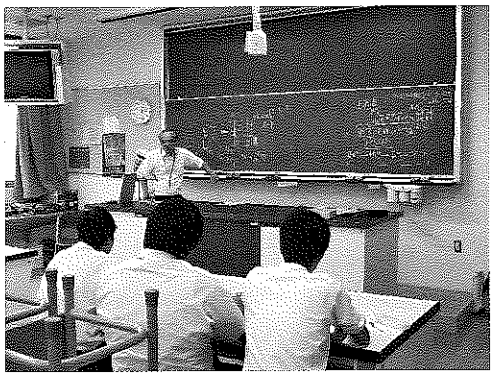
＜資料貸出・閲覧・掲載許可＞

センターでは収蔵する出土品の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して、所定の申請を行ったものに許可し対応している。平成23年度は44件の申請があり約2400点に関して対応した。表のその他とは実測図等記録類の貸出等を含む。

平成23年度実績	件　数	点　数
考古資料貸出	4	20
考古資料閲覧	13	2066
写真等掲載許可	24	317
その他	3	14
	44	2417

＜長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース支援事業＞

平成23年度は、センター職員による専門講義や実習など21回授業を行った。今年度は、生徒に考古学についての基本的な知識を習得させ、考古学に対する興味・関心を高めるために２年生の「考古学入門・生活文化史」の授業を改変した。新たに「考古学研究法」と「考古学調査法」という授業を開講し、その後、内容に沿った実習を組み込むことにより、授業カリキュラムに一定のテーマ性をもたせるようにした。また、考古学を身近に感じてもらうために昨年よりも実習系の授業を多めに設定した。原の辻遺跡の発掘時期には、１・２年生合同で発掘実習を４回実施し、壱岐島内の古墳群と中近世城館跡の巡検研修も実施した。



考古学調査法（講義）

原の辻遺跡発掘調査実習

○平成23年度開講授業一覧

			歴史学入門（１学年）			考古学入門・生活文化史（２学年）		
月	日	曜	内　容	担当者	授業場所	内　容	担当者	授業場所
4	20	水	一支国博物館見学	田口	博物館・センター	考古学研究法（講義）	古澤	壱岐高
	27	水				土器概説①（土器づくり実習）	林	ガイダンス
5	18	水				土器概説②（土器焼成・講義）	林	ガイダンス
	25	水				石器概説（石器づくり実習・講義）	川道	ガイダンス
6	15	水				木器・金属器概説（講義）	片多	センター
	22	水	東アジアの地誌（講義）	古澤	壱岐高	東アジアの地誌（講義）	古澤	壱岐高
7	6	水	東アジアの歴史（講義）	古澤	壱岐高	東アジアの歴史（講義）	古澤	壱岐高
9	14	水				博物館学・展示方法の研究	田口	センター
	21	水				考古学調査法（講義）	川道	壱岐高
	28	水	原の辻遺跡特論（講義）	安楽	壱岐高	原の辻遺跡特論（講義）	安楽	壱岐高
10	19	水	原の辻遺跡発掘体験	古澤・田口	原の辻遺跡	発掘実習①（発掘体験）	古澤・田口	原の辻遺跡
	26	水	原の辻遺跡発掘体験	古澤・田口	原の辻遺跡	発掘実習②（発掘体験）	古澤・田口	原の辻遺跡
11	9	水	原の辻遺跡発掘体験	古澤・田口	原の辻遺跡	発掘実習③（発掘体験）	古澤・田口	原の辻遺跡
	16	水	原の辻遺跡発掘体験	古澤・田口	原の辻遺跡	発掘実習④（発掘体験）	古澤・田口	原の辻遺跡
12	7	水	壱岐の古墳（講義）	安楽	壱岐高	壱岐の古墳（講義）	安楽	壱岐高
	21	水				壱岐の古墳（巡検）	安楽	島内古墳群
1	18	水				整理作業実習①（実測・ナンバリング・トレース）	古澤	センター
	25	水				整理作業実習②（実測・ナンバリング・トレース）	古澤	センター
2	8	水				城郭史（巡検）	林	島内城館跡
3	14	水				課題研究テーマ検討（ディスカッション）	古澤・田口	センター
	21	水				東アジア歴史・中国語コース特別授業	安楽	壱岐高

コースの行事予定

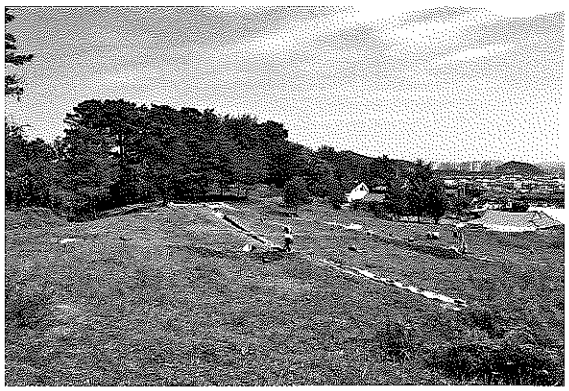
月	日	曜	内　容	担当者	実施場所	備　考
7	3	日	第１回コース体験入学	田口	博物館・センター	博物館・センター内案内
2	16	木	コース３年生表敬訪問	関係職員	３Ｆ会議室	所長、授業に関わった職員と生徒との懇談会
3	5	月	第２回作業部会	関係職員	壱岐高	年度末反省及び次年度計画の協議・調整

④東アジア考古学研究事業

【共同研究・共同調査】

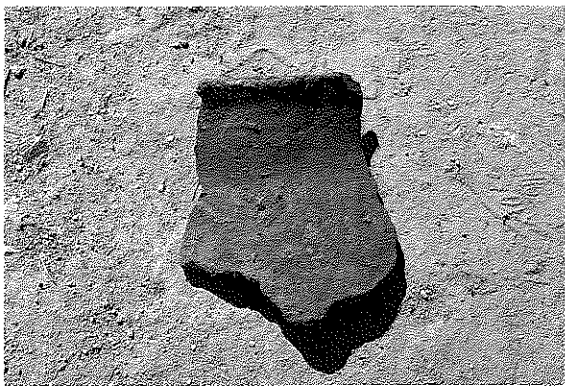
平成23年度から長崎県埋蔵文化財センターと韓国・国立光州博物館の共同研究事業として、相互の発掘調査に職員を派遣している。平成23年度は8月29日～9月9日の約2週間にかけて長崎県埋蔵文化財センターの古澤文化財保護主事が国立光州博物館の新昌洞遺跡の発掘調査に参加した。この調査では、初期鉄器時代の住居址等が発見され、遺物としては初期鉄器時代の土器、高麗・朝鮮時代の陶磁器等が出土した。

一方、長崎県埋蔵文化財センターの原の辻遺跡発掘調査には国立光州博物館の都合により職員の派遣は行われなかった。

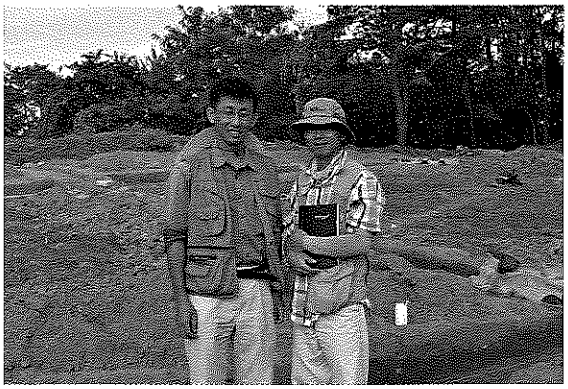


2011年度新昌洞遺跡調査地全景

新昌洞遺跡土器出土状況



新昌洞遺跡出土土器



調査参加者

【東アジア国際ミニシンポジウム「弥生時代の倭と韓―原の辻遺跡と新昌洞遺跡―」の開催】

共同研究の成果を公開するという目的のもと平成23年度は東アジア国際ミニシンポジウムを開催した。

○主　催　長崎県埋蔵文化財センター

○共　催　壱岐市教育委員会・壱岐市立一支国博物館

○後　援　魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加教育委員会（福岡県、佐賀県、糸島市、福岡市、朝倉市、飯塚市、宇美町、唐津市、神埼市、吉野ヶ里町、対馬市各教育委員会）、朝日新聞社、読売新聞社西部本社、毎日新聞社、西日本新聞社、佐賀新聞社、長崎新聞社、壱岐日報社、新壱岐新聞社、壱岐日々新聞社

○日　時　平成23年10月29日（土）

○場　所　壱岐市立一支国博物館多目的ホール

○当日参加者　188名（壱岐島内168名、壱岐島外20名）

○内　容

総合司会　清原倫子（九州国立博物館学芸部展示課）

第Ⅰ部　弥生時代の東アジアの状況―倭と韓―・・・武末純一（福岡大学人文学部教授）

第Ⅱ部　原の辻遺跡と新昌洞遺跡

〈原の辻遺跡の最新発掘成果〉国特別史跡　原の辻遺跡の概要

・・・安楽勉（長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室長）

〈新昌洞遺跡の最新発掘成果〉2000年前の高技術団地、光州新昌洞遺跡

・・・申相孝（韓国・国立光州博物館学芸研究官）

当日は古澤義久（長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室）が発表

第Ⅲ部　パネルディスカッション

登壇者：武末純一、趙鎭先（韓国・全南大学校助教授）、安楽勉、古澤義久

150名の参加を目標に島内・島外へ広報・集客を行い、結果として目標を超過する参加者が参集した。当日、急用のため韓国・国立光州博物館学芸研究官　申相孝氏が来られなくなったため、新昌洞遺跡の発掘調査に参加した古澤文化財保護主事が新昌洞遺跡の発表を担当し、パネルディスカッションには、韓国・青銅器文化に造詣が深く、現在、九州大学で在外研究をされている全南大学校助教授の趙鎭先氏にご登壇いただいた。参加者からは日韓に類似した遺物が出土することに対する感動の声や新昌洞遺跡出土木製品の多彩さに対する驚きの声が寄せられた。

遺跡報告

パネルディスカッション

【長崎県埋蔵文化財センター研究紀要の刊行】

平成24年3月に長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第2号を刊行した。本年度から県内の市町教育委員会文化財所管課にも広く呼びかけ原稿を募集した。

川道寛・古澤義久・・・長崎県における縄文時代精神文化遺物の様相

河合恭典・林隆広・・・長崎西役所跡出土の土器～平成22年度範囲確認調査の出土資料紹介～

松浦市教育委員会（江上正高）・・・（伝）松浦市淀姫神社出土資料について

（4） 佐世保文化財調査事務所の事業

① 県北地区市町教育委員会文化財担当者研修会の開催

佐世保文化財調査事務所は、所管区域である県北地区の市町教育委員会文化財担当者の資質向上と、県と市町間及び市町相互間の連絡を緊密にして、文化財保護に関する共通認識を有することを企図し、平成20年度から県北地区市町教育委員会文化財担当者研修会を開催してきた。平成23年度の研修会でも佐世保文化財調査事務所から諸事業並びに文化財保護行政全般に関する留意点等について講話を行い、各市町教育委員会からは平成23年度実施予定の文化財関係事業概要についての説明があり、それに基づいて活発な協議・意見交換が行われた。

また、平成21・22年度は民間の開発行為と埋蔵文化財保護の円滑な調整が求められる現状に鑑み、外部から講師を招聘して文化財保護行政に関する講演会を実施した。平成21年度は福岡市教育委員会から宮井善朗氏を、平成22年度は佐賀県教育委員会から徳富則久氏を講師としてお招きし、福岡市と佐賀県における事前協議体制及び今日的諸課題等について講演していただいた。平成23年度は株式会社古環境研究所特別顧問杉山真二氏に、壱岐市原の辻遺跡、平戸市入口遺跡、佐世保市直谷稲荷神社岩陰・門前遺跡などにおけるこれまでの自然科学分析の事例から、「自然科学分析からわかること」について具体的に解説していただいた。

本研修会は、実践的な内容を取り入れて市町教育委員会担当者にも好評であったが、平成24年度からは佐世保文化財調査事務所職員定数減などの事情により、実施が困難となって休止することとなり残念である。

② 平成23年度県北地区市町教育委員会文化財担当者研修会実施要項

目的　県北地区市町教育委員会文化財担当者が、埋蔵文化財保護行政に関する情報や有意な事例に触れる場を提供し、文化財保護実務を中心に講演・質疑を行うことにより、専門的な資質の向上を図る。また、県北地区文化財行政担当者の相互連絡を密にすることにより県北地区の文化財保護行政の円滑な推進を図る。

期日　平成23年8月2日（火）

会場　佐世保市山澄公民館　第２講座室

内容
- 講話「佐世保文化財調査事務所の事業概要及び今後について」
- 講演「自然科学分析からわかること」（株式会社古環境研究所　特別顧問　杉山真二氏）
- 講義「埋蔵文化財の届出等に関すること」
- 報告「平成23年度文化財関係事業概要」（各市町教育委員会文化財担当者）
- 報告「調査指導委員会及び史跡整備委員会について」
  - 佐世保市　福井洞窟整備検討委員会
  - 平戸市　和蘭商館復元整備活用検討委員会
  - 松浦市　鷹島海底遺跡調査指導委員会
  - 波佐見町　国指定史跡「肥前波佐見陶磁窯跡」保存整備検討委員会

参加者　佐世保文化財調査事務所所管区域市町教育委員会文化財担当者
（佐世保市、平戸市、松浦市、波佐見町、川棚町、東彼杵町、佐々町、小値賀町）

2．平成23年度に県教委が発行した埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書

発行年	報　告　書　名	収　録　遺　跡	集番号
2011	『長崎県埋蔵文化財調査年報 19』	原の辻遺跡・新大村駅予定地（試）・尾和谷城跡隣接地（試）・長崎西役所跡・尾和谷城跡・丸田遺跡・今福遺跡・麻生瀬遺跡	第４集
2012	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第５集
2012	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	第６集
2012	『尾和谷城跡』	尾和谷城跡	第７集
2012	長崎県埋蔵文化財センター紀要　第２号		

長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書

発行年	報　告　書　名	収　録　遺　跡	集番号
2012	『中ノ瀬遺跡』	中ノ瀬遺跡	第７集

※こちらの一覧を含む長崎県内発行の報告書につきましては、
長崎県埋蔵文化財センターホームページ（http://www/nagasaki-maibun/jp/）のトップページ左側「図書情報検索」から、「書名」・「著者名」・「出版社名」・「キーワード」・「出版年」などの項目で検索できます。

3．平成23年度に県内市町が発行した埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

○長崎市教育委員会発行

発行年	報　告　書　名	収　録　遺　跡	シリーズ名	集番号
2012	『唐人屋敷跡』	唐人屋敷跡		
2012	『興善町遺跡』	興善町遺跡		
2012	『桜町遺跡』	桜町遺跡		
2012	『四郎ヶ島台場跡』	四郎ヶ島台場跡		

○島原市教育委員会発行

発行年	報　告　書　名	収　録　遺　跡	シリーズ名	集番号
2012	『小原下遺跡Ⅱ』	小原下遺跡	島原市文化財調査報告書	第13集

○大村市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2012	『市内遺跡発掘調査概報5』	黒丸遺跡・富の原遺跡・平野遺跡・三城城下跡	大村市文化財調査報告書	第36集

○平戸市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2012	『市内遺跡発掘調査報告書XI』	下大垣遺跡・堂の元遺跡・入口遺跡・梅崎遺跡・丸尾山遺跡・浦小川遺跡・堂山遺跡・亀岡城跡・根獅子遺跡・日之嶽城跡・平戸和蘭商館跡・横島	平戸の文化財	第67集

○松浦市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2011	『松浦市鷹島海底遺跡総集編』	鷹島海底遺跡	松浦市文化財調査報告書	第4集
2012	『松浦市内遺跡確認調査(3)』	田口高野遺跡・久保園遺跡・宮ノ下リ遺跡・ぎぎが浜遺跡・辻ノ尾遺跡・栢ノ木遺跡・辻ノ尾遺跡(隣接地)	松浦市文化財調査報告書	第5集

○対馬市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2011	『金田城跡Ⅳ』	金田城跡	対馬市埋蔵文化財調査報告書	第6集

○壱岐市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2012	『国特別史跡　原の辻遺跡・カラカミ遺跡』	原の辻遺跡 カラカミ遺跡	壱岐市文化財調査報告書	第19集

○雲仙市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2012	『鍋島陣屋跡』	鍋島陣屋跡	雲仙市文化財調査報告書	第10集
2012	『小ヶ倉A遺跡』	小ヶ倉A遺跡	雲仙市文化財調査報告書	第11集

4．事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移

（1）事業別発掘調査届出件数の推移

調査の目的・契機	平成22年度		平成23年度	
a　道路	1	(1)	5	(4)
b　鉄道	1	(1)	5	(1)
c　空港	0		0	
d　河川	0		0	
e　港湾	0		0	
f　ダム	0		0	
g　学校建設	1	(1)	0	
h　住宅	3	(3)	9	(7)
i　個人住宅	8	(6)	15	(13)
j　工場	0		0	
k　店舗	1	(1)	1	(1)
l　個人住宅兼工場または店舗	0		0	
m　その他の建物	10	(3)	11	(9)
n　宅地造成	3	(3)	10	(8)
o　土地区画整理	0		0	
p　公園造成	3	(2)	0	
q　ゴルフ場	0		0	
r　観光開発	0		0	
s　ガス・電気・水道等	4	(4)	3	(3)
t　農業基盤整備事業	4		0	
u　その他の農業関係事業	2	(2)	0	
v　土砂採取	0	0	1	(1)
w　その他の開発	13	(4)	10	(8)
x　自然崩壊	1		1	
y　保存目的の範囲内容確認調査	10	(2)	16	(4)
z　学術調査	0		1	
	65		88	

※（　）数字は件数のうち「開発に伴う試掘・範囲確認調査の報告（長崎県埋文様式5号）」での報告数
※ただし「y 保存目的の範囲確認調査」の（　）数字は史跡現状変更申請による発掘調査を示す

（2）県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移　※（　　）は嘱託職員数

区　分	平成17年	平成19年	平成20年註)	平成21年	平成22年	平成23年
県	22（17）	18（12）	17（16）	15（19）	13（19）	15（23）
市　町	46（10）	35（8）	71（9）	48（15）	39（15）	39（14）

註）平成20年度の市町は文化財担当者数を含む

5．平成23年度　長崎県における発掘調査の履歴

遺跡調査番号	遺跡略号	遺跡名	調査着手日	調査終了日	調査原因	記号	調査種別	調査面積（㎡）	調査主体（旧市町含）	遺跡所在地	届出・通知
		出島和蘭商館跡	2011.4.9	2011.7.31	保存目的	y	範確	137.0	長崎市	長崎市	史跡現状変更
		黒丸遺跡	2011.4.11	2011.4.19	宅地造成	n	範確	4261.0	大村市	大村市	様式５号
		唐人屋敷跡	2011.4.13	2011.4.26	住宅	h	範確	19.0	長崎市	長崎市	様式５号
		平戸和蘭商館跡	2011.4.14	2011.7.15	保存目的	y	範確	33.5	平戸市	平戸市	史跡現状変更
201101	OWA	尾和谷城跡	2011.4.18	2011.6.30	鉄道	b	本	1594.0	県（埋文セ）	諫早市	99条
201102	KIT	岸高遺跡	2011.4.25	2011.4.28	鉄道	b	範確	12.0	県（埋文セ）	大村市	99条
		稗田窯跡	2011.5.10	2011.5.11	鉄道	b	範確	27.0	県（佐文調）	佐世保市	様式５号
201103	KUR	久留里遺跡	2011.5.16	2011.6.3	宅地造成	n	範確	60.0	時津町（県支援）	時津町	99条
		鍋島陣屋跡	2011.5.20	2011.9.30	その他建物	m	本	200.0	雲仙市	雲仙市	99条
		御堂池遺跡（隣接地）	2011.5.25	2011.5.27	その他開発	w	試掘	2.3	佐世保市	佐世保市	様式５号
201104	HAR	原の辻遺跡	2011.5.26	2011.12.28	保存目的	y	範確	850.0	県（埋文セ）	壱岐市	99条
		平野遺跡	2011.6.1	2011.6.3	個人住宅	i	範確	16.0	大村市	大村市	様式５号
		江上支所裏（大刀洗）遺跡	2011.6.1	2011.9.30	住宅	h	本	265.0	佐世保市	佐世保市	99条
		三城城下跡	2011.6.10	2011.7.8	宅地造成	n	範確	180.0	大村市	大村市	様式５号
		唐人屋敷跡	2011.6.13	2011.6.30	住宅	h	本	20.2	長崎市	長崎市	99条
		稲佐古場跡	2011.6.13	2011.6.13	ガス・電気・水道等	s	範確	2.0	長崎市	長崎市	様式５号
		下大垣遺跡	2011.6.22	2011.6.30	住宅	h	範確	20.0	平戸市	平戸市	様式５号
		勝石遺跡	2011.6.24	2011.7.5	個人住宅	i	範確	8.0	大村市	大村市	様式５号
		日野江城城下地区遺跡	2011.6.28	2011.7.8	保存目的	y	範確	19.0	南島原市	南島原市	99条
		根獅子遺跡	2011.6.29	2011.7.8	その他建物	m	範確	1.0	平戸市	平戸市	様式５号
201105	TAK	竹松遺跡	2011.7.4	2011.9.8	鉄道	b	試・範	257.0	県（埋文セ）	大村市	99条
		グラバー別邸跡	2011.7.8	2011.7.29	その他開発	w	本	60.0	長崎市	長崎市	99条
		堂の元遺跡	2011.7.11	2011.7.11	その他建物	m	範確	4.0	平戸市	平戸市	様式５号
		入口遺跡	2011.7.13	2011.7.13	その他建物	m	範確	4.0	平戸市	平戸市	様式５号
		梅崎遺跡	2011.7.14	2011.7.14	その他建物	m	範確	4.0	平戸市	平戸市	様式５号
		武部遺跡	2011.7.19	2011.7.20	住宅	h	範確	39.0	大村市	大村市	様式５号
		出島和蘭商館跡	2011.7.20	2012.3.28	保存目的	y	範確	405.0	長崎市	長崎市	史跡現状変更
		田井原条里遺跡	2011.7.25	2011.9.30	その他建物	m	範確	20.0	諫早市	諫早市	様式５号
		幕府軍陣跡推定地	2011.7.25	2011.10.7	その他開発	w	試掘	74.5	南島原市	南島原市	様式５号
		江上支所裏（大刀洗）遺跡	2011.7.29	2011.9.30	個人住宅	i	本	406.0	佐世保市	佐世保市	99条
		坂口・内高野遺跡	2011.8.1	2011.8.5	道路	a	範確	20.0	大村市	大村市	様式５号
		立小路遺跡	2011.8.1	2011.8.5	道路	a	範確	16.0	大村市	大村市	様式５号
		桜町遺跡	2011.8.2	2011.8.4	ガス・電気・水道等	s	範確	9.3	長崎市	長崎市	様式５号
		日影古墳群	2011.8.4	2011.8.8	道路	a	範確	25.0	壱岐市	壱岐市	99条
		八百屋町遺跡	2011.8.10	2011.9.2	個人住宅	i	本	18.0	長崎市	長崎市	99条
		中尾上登窯跡	2011.8.16	2011.9.9	保存目的	y	範確	8.0	波佐見町	波佐見町	99条
		前方湾海底遺跡	2011.8.20	2011.8.29	保存目的	y	範確	20.0	アジア水中考古学研究所	小値賀町	92条
		山領遺跡	2011.8.22	2011.8.24	個人住宅	i	範確	4.7	雲仙市	雲仙市	様式５号
		黒丸遺跡	2011.8.22	2011.9.5	住宅	h	範確	50.0	大村市	大村市	様式５号
		平高野遺跡	2011.8.25	2011.8.26	道路	a	範確	4.0	東彼杵町	東彼杵町	様式５号
		下開作遺跡（隣接地）	2011.9.7	2011.9.7	その他開発	w	試掘	1.0	佐世保市	佐世保市	様式５号
		現川焼陶窯跡Ｂ	2011.9.13	2011.9.13	ガス・電気・水道等	s	範確	2.0	長崎市	長崎市	様式５号
		黒丸遺跡	2011.9.15	2011.9.20	宅地造成	n	範確	58.0	大村市	大村市	様式５号
		原の辻遺跡	2011.9.22	2011.10.7	自然崩壊	x	範確	20.0	壱岐市	壱岐市	99条
		黒丸遺跡	2011.9.28	2011.10.5	宅地造成	n	範確	82.0	大村市	大村市	様式５号
		春日遺跡（仮）	2011.9.28	2011.9.28	その他開発	w	試掘	2.3	佐世保市	佐世保市	様式５号
		上原遺跡	2011.9.29	2011.11.1	その他開発	w	範確	172.0	南島原市	南島原市	様式５号
		鷹島海底遺跡	2011.9.30	2011.10.31	学術	z	範確	100.0	琉球大学	松浦市	92条
201106	KUR	久留里遺跡	2011.10.3	2011.11.30	宅地造成	n	本	310.0	時津町（県支援）	時津町	99条
		外海牧野墓地	2011.10.3	2011.10.31	保存目的	y	試掘	4.0	長崎市	長崎市	様式５号
		上篠原遺跡	2011.10.4	2011.10.19	個人住宅	i	範確	40.0	雲仙市	雲仙市	様式５号
		三丸遺跡（隣接地）	2011.10.6	2011.10.6	個人住宅	i	試掘	2.0	佐世保市	佐世保市	様式５号
		久津石稙墓群Ａ地点	2011.10.11	2011.10.20	宅地造成	n	範確	7087.0	大村市	大村市	様式５号
		横島和蘭商館付属施設跡	2011.10.11	2012.2.29	保存目的	y	範確	225.0	平戸市	平戸市	99条
		鶴亀城（神代城）跡隣接地	2011.10.12	2011.10.19	個人住宅	i	範確	3.9	雲仙市	雲仙市	様式５号
		小野Ｃ遺跡（隣接地）	2011.10.12	2011.10.13	土砂採取	y	試掘	6.0	佐世保市	佐世保市	様式５号
		大古川岩陰	2011.10.12	2011.11.11	保存目的	y	範確	8.0	佐世保市	佐世保市	99条
		原の辻遺跡	2011.10.17	2011.12.23	保存目的	y	範確	224.0	壱岐市	壱岐市	99条
201107	KAZ	葛瀬遺跡	2011.10.17	2011.11.2	保存目的	y	試・範	80.0	五島市（県支援）	五島市	99条
		大屋敷遺跡	2011.10.19	2011.10.19	個人住宅	i	範確	6.0	雲仙市	雲仙市	様式５号
		山田条里跡	2011.10.24	2011.10.28	その他建物	m	範確	16.0	雲仙市	雲仙市	様式５号
		竹ノ崎遺跡	2011.10.25	2011.11.4	宅地造成	n	範確	26.0	諫早市	諫早市	様式５号
		石田城跡	2011.10.26	2011.10.26	保存目的	y	範確	4.0	五島市	五島市	史跡現状変更
		富の原遺跡	2011.10.27	2011.11.10	店舗	k	範確	244.0	大村市	大村市	様式５号
		新田板碑遺跡	2011.10.27	2011.10.27	住宅	h	試掘	41.8	佐世保市	佐世保市	様式５号
		永中遺跡	2011.10.28	2011.10.28	道路	a	範確	4.0	雲仙市	雲仙市	様式５号
		下本山岩陰遺跡（隣接地）	2011.10.31	2011.10.31	その他開発	w	試掘	2.0	佐世保市	佐世保市	様式５号
		四郎ヶ島台場跡	2011.10.31	2012.3.2	保存目的	y	範確	71.1	長崎市	長崎市	99条
		上原遺跡	2011.11.1	2012.1.10	その他開発	w	範確	148.0	南島原市	南島原市	99条
201108	TAK	竹松遺跡	2011.11.7	2012.3.2	鉄道	b	本	1500.0	県（埋文セ）	大村市	99条
		深堀遺跡	2011.11.14	2011.11.30	宅地造成	n	範確	16.0	長崎市	長崎市	様式５号
		日野江城跡（二ノ丸北側地点）	2011.11.14	2011.12.16	その他開発	w	試掘	19.0	南島原市	南島原市	様式５号
		カラカミ遺跡	2011.11.21	2011.11.21	保存目的	y	範確	300.0	壱岐市	壱岐市	99条
		三城城下跡	2011.11.30	2011.12.1	住宅	h	範確	16.0	大村市	大村市	様式５号
		母ヶ浦Ｂ遺跡（隣接地Ａ）	2011.12.2	2011.12.2	住宅	h	試掘	1.5	佐世保市	佐世保市	様式５号
		真正寺条里跡	2011.12.6	2011.12.22	その他建物	m	範確	10.0	雲仙市	雲仙市	様式５号
		西原遺跡	2011.12.6	2011.12.14	その他建物	m	範確	15.0	雲仙市	雲仙市	様式５号
		浦小川遺跡	2011.12.12	2011.12.16	その他建物	m	範確	35.0	平戸市	平戸市	様式５号
		尾和谷城跡	2011.12.14	2011.12.14	個人住宅	i	範確	16.0	諫早市	諫早市	様式５号
		山領遺跡	2011.12.20	2011.12.21	個人住宅	i	範確	6.0	雲仙市	雲仙市	様式５号
		三城城下跡	2012.1.6	2012.1.10	個人住宅	i	範確	7.5	大村市	大村市	様式５号
		福井洞窟	2012.1.17	2012.3.31	保存目的	y	範確	16.0	佐世保市	佐世保市	99条
		峰ノ前遺跡	2012.1.20	2012.1.20	宅地造成	n	試掘	2.3	佐世保市	佐世保市	様式５号
		金石城跡	2012.1.23	2012.3.16	その他建物	m	範確	121.5	対馬市	対馬市	99条
		浮迫遺跡	2012.2.6	2012.2.17	その他開発	w	範確	48.0	長与町	長与町	様式５号
		黒丸遺跡	2012.2.16	2012.3.23	保存目的	y	範確	166.0	大村市	大村市	99条
		小路口遺跡	2012.3.21	2012.3.22	個人住宅	i	範確	10.0	大村市	大村市	様式５号
		小路口遺跡	2012.3.21	2012.3.22	個人住宅	i	範確	6.0	大村市	大村市	様式５号
		江下遺跡	2012.3.27	2012.3.27	個人住宅	i	試掘	2.3	佐世保市	佐世保市	様式５号
								20479.5			

6．平成23年度　長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

(1) 原の辻遺跡（はるのつじいせき）

所 在 地　壱岐市芦辺町深江鶴亀触外
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　原の辻遺跡調査研究事業
調査面積　850㎡
調査期間　平成23年5月26日～12月26日
調査区分　範囲確認調査
報 告 書　平成24年3月刊行済み
処　　置　調査後埋め戻し

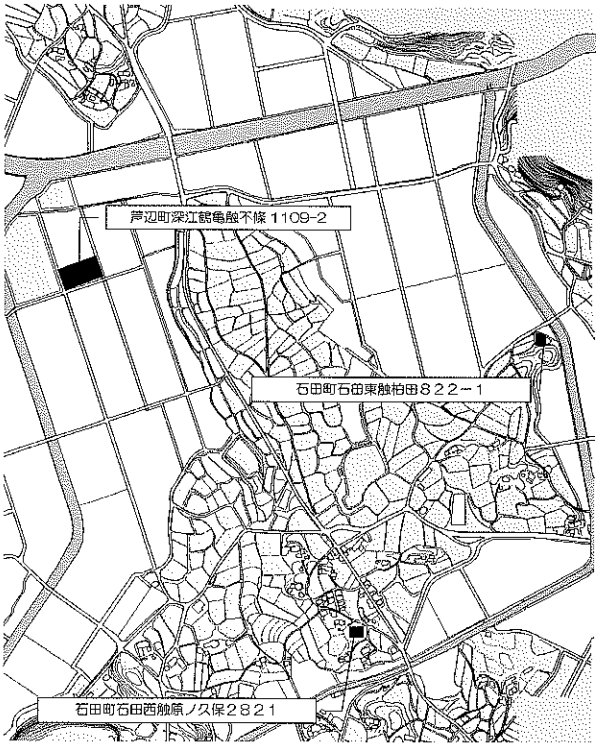
【柏田地区】

立　地

調査対象地はかつて水田だったところで、現在は農業放棄地となっている。南西から北東にのびる低丘陵の先端部に位置し、自然地形は南側の低丘陵部から北へ傾斜する。

調　査

調査区は南北20m、東西5mの100㎡を設定した。Ⅰ～Ⅴ層の土層が確認され、Ⅰ層は耕作土、Ⅱ～Ⅳ層は旧耕作土、Ⅴ層は地山である。Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ層から旧石器および近世磁器片が出土した。



原の辻遺跡位置図

【原ノ久保地区】

立　地

調査対象地はかつて果樹園だったところで、現在は農業放棄地となっている。原の辻遺跡の南側に位置する。自然地形は西から東へ傾斜する。調査対象地の東側に隣接する水田面とは約1mの標高差がある。

調　査

調査区は南北15m、東西20mの300㎡を設定した。地表面（13.3m～13.9m）から約0.5mの深さで地山に到達した。遺構としては近現代のものと思われる溝7条、性格不明の落ち込み1基、弥生土器（壺）を廃棄したような穴1基を検出した。遺物としては旧石器、弥生土器等が出土した。

【不條地区】

立　地

調査対象地は水田で、丘陵から西北にやや離れた低地である。弥生時代中期の船着き場跡の北側に位置する。

調　査

南北 5m ×東西 20m の調査区を 3 箇所、南北 5m ×東西 30m の調査区を 1 箇所設定した。重機を用いて表土を除去した後、人力で掘削した。遺構としてはピット 4 基、溝 1 条、石列遺構 1 基、礫群 1 基、旧河川 2 条、自然の落ち込み 2 箇所を確認した。

調査区東側の 3 区と 4 区では 1 号河川と 2 号河川が流れており、両河川にはさまれた中洲状陸地が存在する。この中洲状陸地は造成されたものである可能性がある。そしてこの中洲状陸地の東岸では 1 号石列が築かれる。1 号石列は 3b 区で確認した。幅約 1.2m で、走行は約 N42° W と北西-南東方向に延びる。3b 区における堆積・形成順序から石列が構築された年代は弥生時代中期頃で、船着き場跡とほぼ同時期の遺構である。船着き場跡とは連続しないため同一遺構ではないが、河川跡の岸に構築されていることから水利施設等の可能性がある。1 号礫群は 4a 区で確認され、自然木、獣骨片が多数確認された。出土遺物から古代末～中世のものである。

出土遺物としては弥生土器、古墳時代初頭土師器、須恵器、古代～中世土師器、中国青磁、木杭等が確認された。

総　括

柏田地区及び原ノ久保地区では耕作等の影響により弥生時代の包含層がほとんど遺存していない状況を確認した。

不條地区の調査成果としては、弥生時代中期に船着き場跡に流れ込む河川に中洲状の陸地があったこと、その陸地東岸に石列遺構が構築されていたこと、礫群遺構があることからもわかるように古代・中世に土地利用がなされていたことなどが挙げられる。

【調査担当：安楽・林・田口・古澤・宮武・今西】（文責：古澤）

不條地区 3b 区 1 号石列

不條地区 4c 区 1 号礫群

不條地区 1 号礫群の獣骨出土状況

不條地区 1 号礫群の獣骨採取状況

（2）尾和谷城跡（おわだにじょうあと）［第２次調査］

所 在 地　諫早市下大渡野町　　**調査主体**　長崎県教育委員会

調査原因　新幹線関連工事　　**調査面積**　1,594㎡

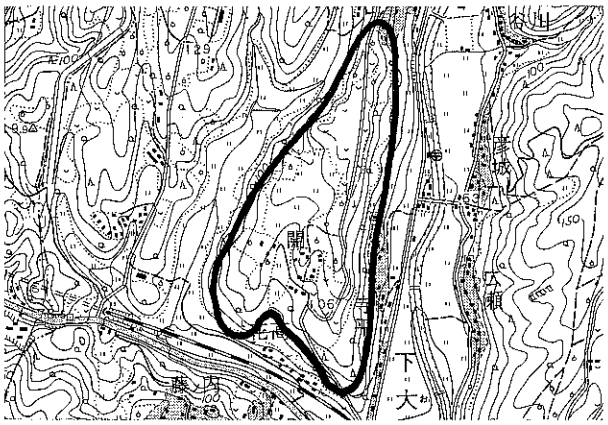
調査期間　平成 23 年 4 月 18 日～6 月 30 日　　**調査区分**　本調査

報 告 書　刊行済み　　**処　　置**　調査後工事

立　地

城跡は、諫早市と大村市との市境にある舌状に延びた小高い丘で、諫早側の標高 50m ～ 120m に位置している。

調査を実施した箇所は、22 年度実施した部分から北側へ上った標高 70m ～ 90m の急傾斜地にあたる。尾和谷城は、西郷石見守尚善が家臣に命じて築城した西郷氏の支城である。天正元年（1573）に諫早西郷軍の侍大将として、尾和谷城主の尾和谷軍兵衛が大村純忠の居城である大村三城城の攻撃をするが、策略によって戦死している。



尾和谷城跡位置図〔諫早〕（S＝1/25,000）

調　査

調査区を、平成 22 年度に設定したグリッド配置に基づき南北軸（A～E）と東西軸（1～8）とし、10m 区画を 1 グリッドで、記号番号を付した。

調査手順も平成 22 年と同じく、調査区を設定した範囲に照葉樹の葉や枝類が散乱していたため、葉と樹木の枝類を収集し、集積を行った。

地表に散乱した樹木の葉、枝を集積後第 1 回の航空写真の撮影を行った。次に腐葉土（Ⅰ層）の掘削から調査を開始した。腐葉土直下からは、近世陶磁器等の出土があった。

Ⅱ層に青磁、土師器、瓦質土器、黒曜石石核及び旧石器時代のナイフ形石器が出土している。

Ⅲ層は、地山の赤褐色粘質土で安山岩の風化礫が混じり、遺物の出土は見られなかった。

遺構は、柱穴、土坑等を 16 箇所で検出している。

まとめ

今回の調査は、16 基の遺構を確認したが、遺構に伴う遺物の出土がなかったため、確実な時期をとらえることができなかった。遺物では、旧石器時代のナイフ形石器が出土し、土器類では叩きの成形痕がある古墳時代の土師器が出土した。中世のものとしては玉縁の白磁、土師質の火鉢、滑石製石鍋等が出土している。以上のような結果から尾和谷の斜面を長期に渡り利用していたことが確認された。

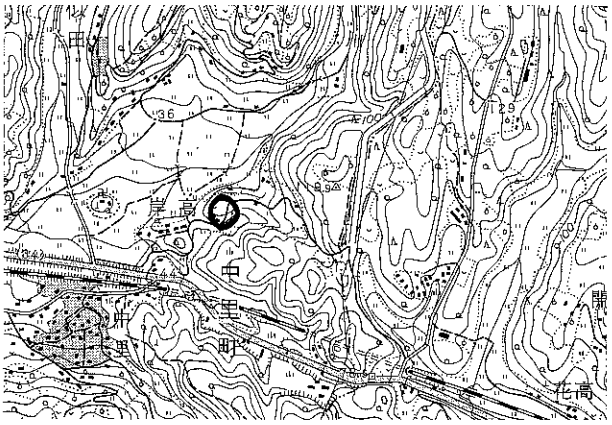
【調査担当：町田・川淵・中村】（文責：町田）

（3）岸高遺跡（きしだかいせき）

所 在 地　大村市中里町２２１－１
調査原因　新幹線関連予備調査
調査期間　平成23年4月25日～4月28日
報 告 書　刊行なし
調査主体　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　12㎡　３個所
調査区分　範囲確認
処　　置　慎重工事

立　地

岸高遺跡は、大村市中里町岸高に所在し、旧石器時代～縄文時代の遺跡として周知されている。標高は約60ｍで、北側に急傾斜面を持つ丘陵端部に位置する。今回の調査地点は、北側斜面の際の平坦部分で、宅地として用いられていた。



岸高遺跡位置図〔諫早〕(S=1/25,000)

調　査

調査区の北側部分は、傾斜面に盛土をして宅地を造成したことが確認できたため、平坦な旧地形が残っていると思われる南西部分に３調査坑を設定した。

３か所の調査抗の土層は、堆積状況の部分的な差異は見られたが、上位から、家屋解体の瓦礫を多量に含む埋土→旧表土→遺物を含まない地山直上の安山岩の風化土→安山岩の風化礫からなる地山層となり、いずれの調査坑からも遺物包含層は確認できなかった。

遺物包含層がなかった理由として、当該調査区が急傾斜面を持つ遺跡の端部にあたること、宅地造成や解体の際に重機等により削平やかく乱があったためと考える。

まとめ

今回の調査では、調査した範囲には包含層が残っておらず遺物も見られなかった。平坦部である南側に遺跡の中心があるものと思われる。

（文責：川畑）

TP３　東壁

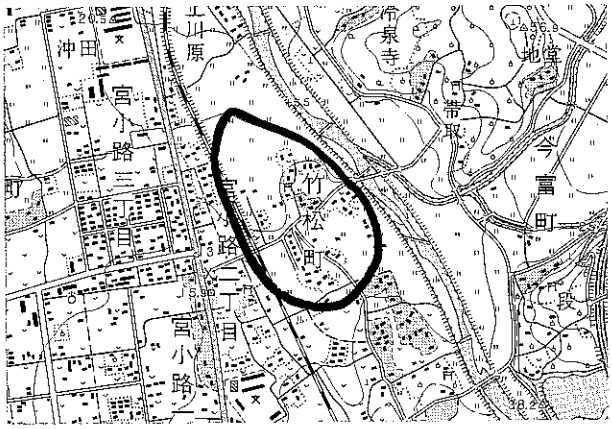
岸高遺跡調査風景

（4）竹松遺跡（たけまついせき）

所 在 地　大村市竹松町１０５０番地　他
調査原因　新幹線関連予備調査
調査期間　平成23年7月4日～9月8日
報 告 書　刊行なし
調査主体　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　257㎡
調査区分　試掘及び範囲確認
処　　置　本調査

立　地

本遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代～中世の遺跡として周知されている。標高は約10～15ｍで、大村市を東から西に流れる郡川によって形成された扇状地の北側端部にあたり、南東から北西に緩やかに傾斜する。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S=1/25,000）

調　査

今回の範囲確認調査地点は、遺跡の北側部分にあたり、田や畑など農地として用いられていた場所である。また、新幹線関連の工事が行われる遺跡範囲外の北側隣接地において、遺跡の有無を確認するための試掘調査もあわせて実施し、計55ヶ所の調査抗を設定した。

調査区北側の基本土層は、表土、２層、３層:灰褐色土（古代末～中世初頭の遺物包含層）、４層・５層：黄褐土（古代の包含層）、６層（地山）となる。また調査区南側の基本土層は、表土、２層、３層：灰褐色土（古代末～中世初頭の遺物包含層）、４層・５層：黒色土（古代の包含層）、６層（地山）となり、４層、５層の黒色土は西側に向かうほど堆積は浅くなる。

まとめ

今回の調査では遺跡の範囲外も含めて北側部分に古代末～中世の遺物包含層や同時期と思われる遺構を確認することができた。このことから遺跡の範囲を広げることと、当該部分についてはさらに詳しい調査を実施することが必要であるため、本調査を実施した。

【調査担当：川畑・宮武・今西】（文責：今西）

TP4　遺構（ピット）検出状況

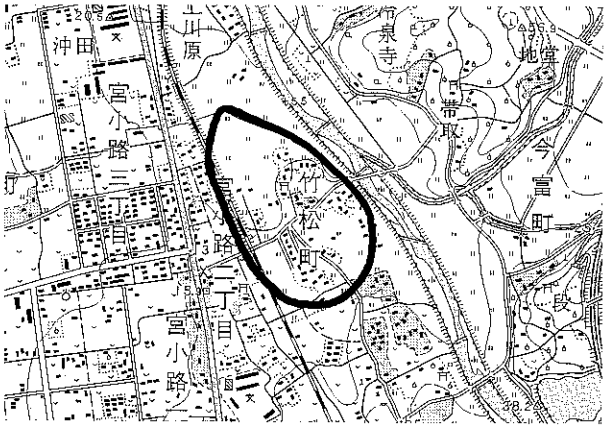
作業風景

（5）竹松遺跡（たけまついせき）

所 在 地　大村市竹松町１０５０番地　他
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成23年11月7日～平成24年3月2日
報 告 書　刊行なし
調査主体　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　1500㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

本遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代～中世の遺跡として周知されている。標高は約10～15ｍで、大村市を東から西に流れる郡川によって形成された扇状地の北側端部にあたり、南東から北西に緩やかに傾斜する。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S=1/25,000）

調　査

今回の調査地点周辺は、平成23年7月4日～9月8日に実施した範囲確認調査で、包含層の堆積が厚く本調査が必要であると判断した場所である。調査は、座標に合わせて10ｍ×10ｍの方眼を組み、表土を重機で、それ以外を人力で掘削した。遺構は、古墳時代から古代にかけてのものと思われる南・北に主軸を持つ溝４条と時期不明のピット５基、井戸の可能性が高い掘り込みを検出した。遺物は中世～古墳時代のものを中心にコンテナ33箱分が出土した。特筆すべきものとして、古墳時代のものと思われる耳環２点、ガラス玉２点、古代の越州窯系青磁碗片１点、緑釉陶器片２１点（同一個体）が出土した。

まとめ

調査では遺物の出土数が多い反面、検出した遺構が少なかった。調査区は南側と北側の標高が高く、中央部の標高が１～0.5ｍほど低くなっている。そのため、南側と北側の標高が高い部分が人々の生活の場として利用され、窪んでいる中央部は利用されなかったものと推測される。さらに、後世の土地改変により、高い部分は大きく削平を受けたものと思われる。

なお、調査区内で緑釉陶器や越州窯系青磁碗片が出土したことから、財産や社会的地位がある人（達）が生活した場所が近くにあるものと推測される。

【調査担当：川畑・宮武・今西】（文責：今西）

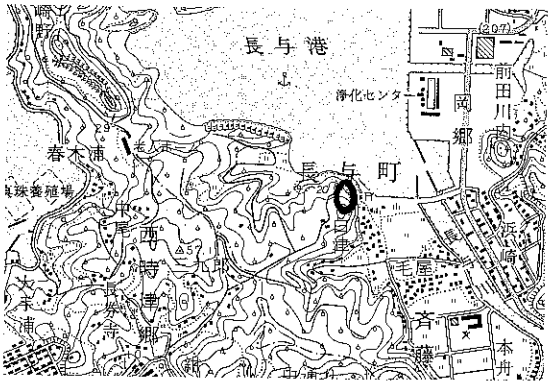
作業風景

（6）久留里遺跡（くるりいせき）

所 在 地　西彼杵郡時津町久留里郷字岩本
調査原因　宅地開発
調査期間　平成23年5月16日～年6月3日
報 告 書　平成23年度刊行済み
調査主体　時津町教育委員会
調査面積　60㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　本調査

立　地

遺跡は時津町市街から北西へ1.5kmの海岸部に位置する。現在は、埋め立てによって陸地化するものの、かつては鏡島と呼ばれる島で、低地部では海水浴場が営まれていた。遺跡は島の丘陵部南西から海岸に向けて形成され、標高は地表面で丘陵部で３ｍ、低地部で１ｍを測る。

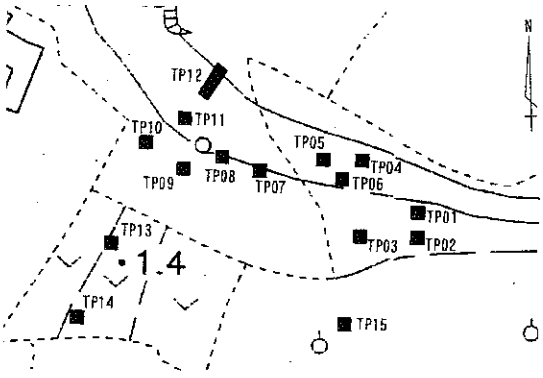


久留里遺跡位置図〔長浦〕（S=1/25,000）

調　査

調査は平面直角座標系に則り、２ｍ×２ｍの試掘坑を設定し、15箇所を調査した。基本土層は、耕作土直下に暗褐色砂質土を挟み、黄褐色砂質土、灰色と褐色が帯状に交互に堆積する砂質土、灰黄褐色砂混じりの礫層、黒色砂層が続く。遺物包含層は黄褐色砂質土より下位である。

黄褐色砂質土は縄文時代中期を主体とする遺物包含層で、丘陵裾の試掘坑で比較的厚く堆積が見られた。特にTP02、TP06、TP11においては、阿高式系の縄文土器のほか、黒曜石、安山岩製の石器類が出土している。黄褐色砂質土以下は出土量が少なくなるものの、TP08の黒色砂質土からは縄文前期、TP09では磨消し縄文を持つ後期土器片等が出土している。遺跡の低地部においては、弥生土器を包含する褐色砂質土が確認されており、TP13からは中期末から後期初頭の高坏の坏部が出土している。



試掘坑配置図（S=1/1,000）

まとめ

調査の結果、丘陵裾を中心に縄文時代の遺物包含層が存在することが確認された。平成16年に遺跡の北西部でおこなわれた範囲確認調査では曽畑式土器が多く見られたが、今回の調査ではむしろ中期の阿高式系土器が支配的であった。低地部の一部には弥生時代の遺物包含層が認められた。なお、遺跡南東の海岸では、6世紀末の須恵器坏や大形の須恵器甕の体部片、土師質土器皿、白磁片等が採集されている。

【調査担当：川畑・古澤・宮武・今西】（文責：宮武）

（7）久留里遺跡（くるりいせき）

所 在 地　西彼杵郡時津町久留里郷字岩本　　**調査主体**　時津町教育委員会

調査原因　宅地開発に伴う道路工事　　**調査面積**　310㎡

調査期間　平成23年10月3日～11月30日　　**調査区分**　本調査

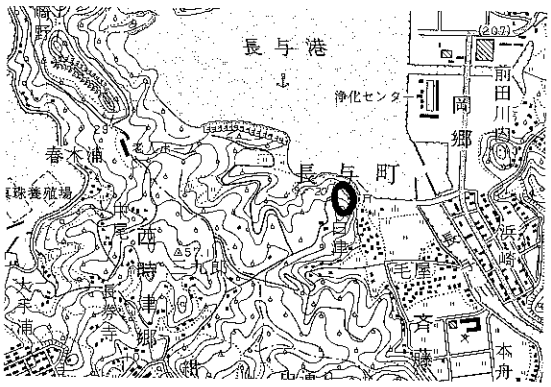
報 告 書　平成23年度刊行済み　　**処　　置**　調査後工事

立　地

遺跡の所在地は、時津町役場から国道を北へ1.5km程行った久留里郷の海岸に面した位置に在る。

町内の遺跡で縄文時代の遺跡としては、木場遺跡A地点からスクレイパー、石鏃、黒曜石剥片が出土した他に木場崎遺跡B地点、似田の多尾遺跡からも同様に石鏃、黒曜石剥片が出土している。

この外に前島遺跡、釜ノ島遺跡、前開遺跡、碇遺跡が挙げられる。



久留里遺跡位置図〔長浦〕（S=1/25,000）

調　査

土層の基本層序は8層からなり、1層に耕作土、2層は暗茶褐色土、3層は暗黄色砂層、4層暗褐色砂層、5層明灰白色砂層、6層砂礫層（1区と2区の一部で堆積）、7層黒灰白色砂礫層、8層暗緑色砂礫層となっている。遺構は、径が約1m程の集石土坑（貯蔵穴）1基を検出している。土器は、縄文時代前期の曽畑Ⅱ式土器が7層から出土している。これに続いて、6層～5層にかけて滑石を混入した轟C式系土器、並木式土器、阿高式土器、春日式土器、出水式土器が出土している。さらに4層からは、縄文時代後期中葉の北久根山式土器及び西平式土器が出土している。石器は、曽畑式土器に伴う石錘が挙げられる。この石錘は殆どが結晶片岩を利用したもので、型式としては、短軸の両端を打欠したⅠ型としているものである。石鏃は、鍬形鏃に類似するものの脚の抉りが浅い短脚を作出しており、縄文時代前期以降の土器に伴う資料と言える。また、海岸部の特色ある石器に石銛がある。この石器は、外洋の大型海獣を捕らえる石器として県内の遺跡では考えられているが、内湾の大村湾では大型海獣は生息しない地域で、陸上の大型動物捕獲の道具用と考えられる。小型の石器では、石匙類及び縦長剥片を利用した使用痕ある剥片が多数出土している。装飾品としてライトグリーンの色をした大珠が出土している。

まとめ

以上の結果から縄文時代～中世時代に至る場の利用が継続していたことを知ることができた。時期別での場の利用を出土状況から確認すると、縄文時代前期から後期にかけての土器やこれらに伴う石器の道具が出土している。この時期には、漁撈、狩猟に適した生活環境条件が備わっていたと考えられ、石錘や石鏃が多数出土している。また、縄文時代以後の出土資料として、弥生時代、古墳時代、古代、中世の遺物をそれぞれ確認しているが、何れの時期も遺物数量は僅かで、久留里遺跡を拠点とした生活が窺えず一時的な場の利用として捉えることができる。　【調査担当：町田・中村】（文責：町田）

（8）葛瀬遺跡（かずらせいせき）

所 在 地　五島市玉之浦町　　**調査主体**　五島市教育委員会

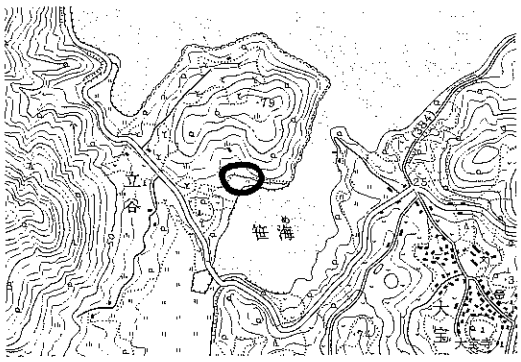
調査原因　圃場整備　　**調査面積**　80㎡

調査期間　平成23年10月17日～11月2日　　**調査区分**　試掘及び範囲確認調査

報 告 書　刊行なし　　**処　　置**　慎重工事

立　地

調査地は五島市玉之浦町に入り込む玉之浦湾の最深部（笹海）に面する丘陵斜面に位置する。現在は数段におよぶ水田が造成されている。当遺跡は昭和59年11月に長崎県教育委員会による踏査によって周知の埋蔵文化財包蔵地とされており、その際に石斧、黒曜石、サヌカイト片、縄文土器（中期：並木式）を採取したとされる。



葛瀬遺跡位置図〔玉之浦〕（S=1/25,000）

調　査

丘陵傾斜地に段々状に造成された水田ごとに調査区〔周知の遺跡範囲内（＝以下、範囲確認）はA～F区、周知の遺跡外（＝以下、試掘）はT～X区とした〕を分け、範囲確認については水田ごとに2～4か所の調査区を、試掘については水田ごとに1か所の試掘区を設定した。

ほぼ全ての調査区および試掘区で、同じような層序の堆積が確認された。それは耕作土（1層）、造成土（盛り土、2a～c層）、地山（自然堆積の無遺物層、3層）の順番に堆積する層序であり、良好な遺物包含層および遺構は確認できなかった。

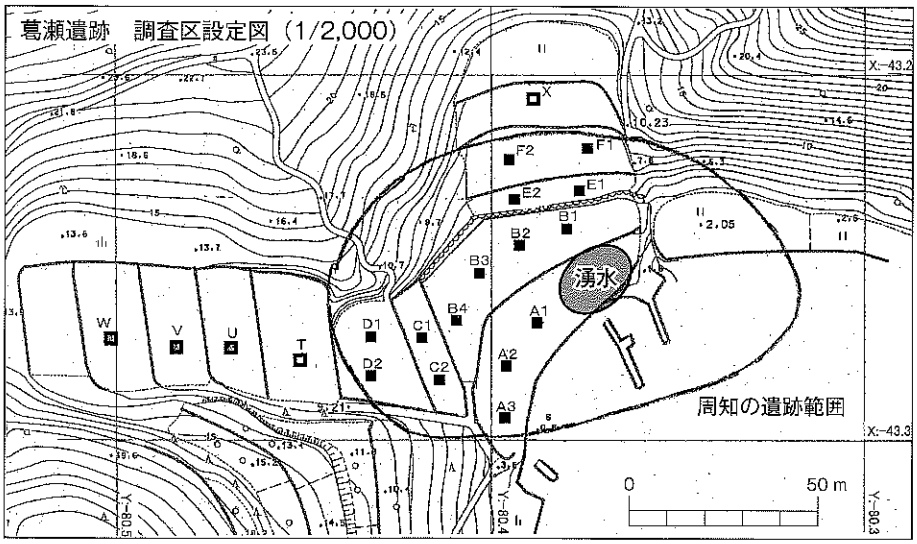
出土した遺物は、縄文土器底部（阿高式）、蛇紋岩製石斧、弥生土器片、中国産白磁碗（Ⅳ類およびⅦ類）、寛永通宝などで、出土量は少なく合計13点を数えるにすぎない。特にA3区は同じ造成土の中から縄文土器と中世の石鍋片、寛永通宝が出土しているため、水田造成の際に混入したものと推測される。

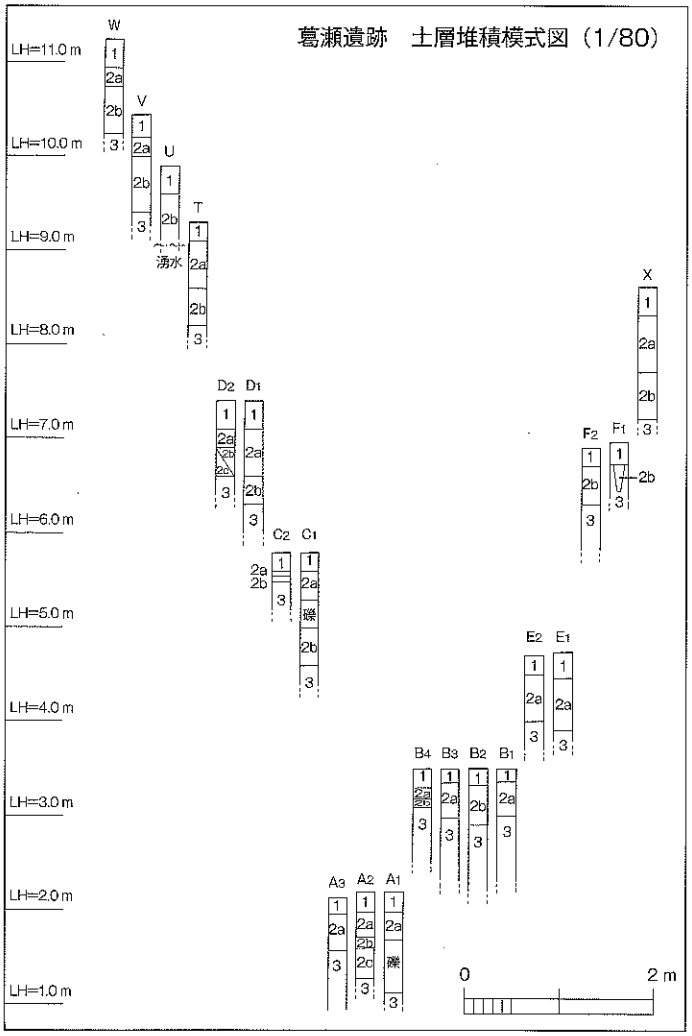
遺跡の所在する段々の水田は、すでに玉之浦支所に保管される字限図〔1873年（明治6）の地租改正に伴い、明治政府によって字単位で作成された地図〕に「田」として記載されていることから、近世末から近代初頭には確実に造成されたことが推定される。機械力のない時代の造成であるため、周辺の丘陵斜面を削り取ってより低地部に盛り土する、いわゆる「切盛り工法」で行われたことが推測される。出土した遺物が全て造成土（盛り土）からであるという現象は、この「切盛り工法」によりかつて存在した遺跡（遺物包含層や遺構）が削り取られ、場所を移動した結果と思われる。

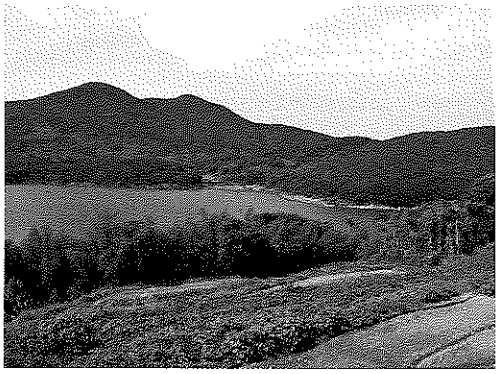
出土した遺物はすべて造成土からの出土であるが、縄文時代から江戸時代にかけてほぼ全時代を網羅する内容である。これは当遺跡の所在する地域が、丘陵部の緩やかに谷間に位置して湧水に恵まれ、また玉之浦湾の最深部に位置するなど、その立地が太古の昔より人が住まうのに比較的適した場所であったことを意味するものと推測される。

今回の試掘および範囲確認調査では遺物包含層および遺構は確認されなかった。また出土した遺物のすべてが水田造成土からのものであり、このことは遺跡がすでに水田造成により削平されていることを示唆するものと思われる。

【調査・文責：林】







遺跡遠景（笹海の奥が遺跡）

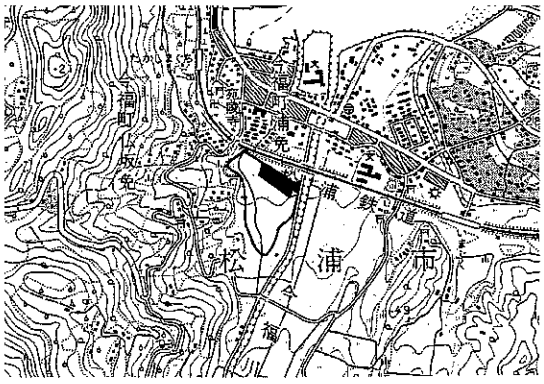
調査風景

（9）今福遺跡（いまふくいせき）

所 在 地　松浦市今福町仏坂免字五百田　ほか
調査原因　西九州自動車道伊万里松浦道路建設工事
調査期間　平成23年6月15日～平成24年2月20日
報 告 書　平成24年度刊行予定
調査主体　長崎県教育委員会
調査面積　6,600㎡
調査区分　緊急発掘調査
処　　置　調査後工事

立　地

当該遺跡は、松浦市北東、東に佐賀県伊万里市と接する今福町に所在する。国見岳・人形石山・石倉山を源流に北流して伊万里湾に注ぐ、今福川が形成した沖積平野の水田地帯に展開する。東西約250 m、南北約300 mの範囲で、標高約6 m～14 m、北に向かって緩やかに傾斜する。現在、海岸線は近世以降の埋め立てによって当該遺跡から約600 mほど北に離れているが、それ以前は当該遺跡の付近まで湾が進入していたと考えられる。



今福遺跡位置図〔今福〕（S=1/25,000）

調　査

平成23年度は、当該遺跡の北半部を中心に6,600㎡について調査を実施した。調査区には、座標系に合わせて南北を主軸とする100 m方眼の大グリッドを設定し、東西を1～4、南北をA～Cと符号した。大グリッド内は20 m方眼で区画して中グリッドを設定、1～25の番号を付した。さらに中グリッド内は10 m方眼で小グリッドを設け、ア～エと符号した。また便宜上、調査区東部を⑤区、調査区西部を⑥区とした。

調査は現圃場の耕作土と整地客土層、旧河道内堆積礫層を重機で掘削した後に開始した。その結果、6条の今福川とその支流の旧河道跡（旧河道跡25～30）、縄文時代後・晩期遺物包含層を検出し、縄文時代～近世の遺物約23,000点が出土した。縄文時代後・晩期遺物包含層は、調査区中央に位置し南北に細く展開する。土器約2,900点と石器約1,200点が出土した。一部に石材等の破片が集中して見られ、石器製作場として利用されたと考えられる。旧河道跡25は南西から北東へ流れ、南側で支流が流れ込む。残存する最大長は約14 m、最大幅は約12 mである。縄文時代の石器と土器、弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶磁器、近世陶磁器等、約3,600点が出土した。旧河道跡26は東から北西へ流れる。残存する最大長は約15 m、最大幅は約10 mである。縄文時代の石器、土師器、貿易陶磁器、近世陶磁器等、約30点が出土した。旧河道跡27は南西から北東へ流れる。残存する最大長は約9 m、最大幅は約7 mである。縄文時代の石器、弥生土器、土師器等、約160点が出土した。旧河道跡28は南西から北東へ流れ、南側で支流が流れ込む。残存する最大長は約10 m、最大幅は約4 mである。縄文時代の石器と土器、弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶磁器など、約1,400点が出土した。旧河道跡29は南西から北東へ流れる。残存する最大長は約7 m、最大幅は約5 mである。縄文時代の石器、弥生土器、土師器等、約50点が出土した。旧河道跡30は西から東へ流れる。残存する最大長は約5 m、最大幅は約5 mである。縄文時代の石器、弥生土器、土師器等、約130点が出土した。

まとめ

平成23年度の調査においても、遺構については明確なものを確認できなかったが、昨年度遺跡北西部で確認した縄文時代後～晩期の石器製作場跡と考えられる遺物包含層につづき、今年度も縄文時代後～晩期の石器製作場跡を含む遺物包含層を発見した。昨年度のものは、今福町西部の山地裾部に位置し、本来もっと上位にあったものが流れ落ちて２次的に形成された可能性も考えられるが、今回のものは共伴する遺物の出土状況などからプライマリーなものと考えられる。今福川の氾濫原中に位置するが、当時は比較的に安定した環境にあったものと推測される。また、平成23年度も多くの今福川とその支流の旧河道跡を確認した。河床や河岸で明らかに破棄された状況が窺える土器など、遺物の出土状況から河道の時代が特定されるものも数条あったが、時代が特定できない河道もあった。当該遺跡の場合は他の遺跡よりも河道の時代が特定しづらいことが特徴的である。擂り鉢状に三方を山で囲まれた狭い地域に存在する当該遺跡の環境では、地形と短い流路により多少まとまった雨量があると河水がすぐに流量・流速を増して激流と化すため、流れの中の遺物にはローリングを受けて角が丸まるどころかさらに割れて新しい角が形成されてしまう。このためローリングを受けていない遺物が河道内から出土したとしても、ローリングの如何でその遺物がその場でその時代に破棄されたものかは判断できない。新しい時代の流れによって割られた古い時代の遺物が存在するのである。また、河道内の出土遺物が特定の時代に集中していたとしても、当該地域は狭い中に様々な時代の遺構が存在していると想定されるため、その河道が新しくても古い時代の遺構を切って流れていた可能性が考えられるのである。しかし、逆にこのような狭く限定された地域であるからこそ、時代が特定できない旧河道跡の埋土に包含される遺物であっても、調査視点として地域の歴史的環境を考察するために有効であると考える。このことは当該地域に限らず、リアス式海岸により同様の立地環境が多く見られる本県の埋蔵文化財に対して、発掘調査担当者は留意すべきことであろう。

【調査担当：杉原・冨岡・生田・佐々木・竹本・加世田・福永・松田・半田】（文責：杉原）

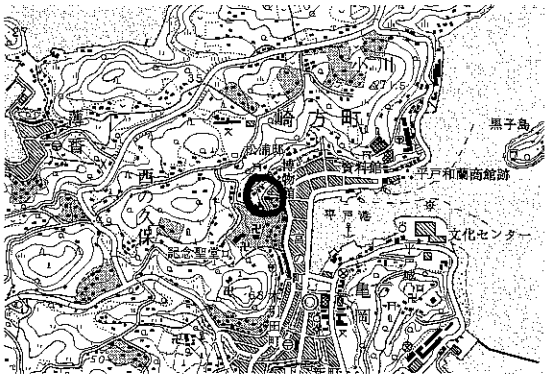
平成23年度今福遺跡緊急発掘調査 調査風景

(10) 中之館跡（なかのたちあと）

所 在 地　平戸市鏡川町志々伎谷
調査原因　県有地売却関係
調査期間　平成24年1月23日～1月27日
報 告 書　刊行なし
調査主体　長崎県教育委員会
調査面積　16㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　調査後現状保存

立　地

平戸島の北部、平戸瀬戸を挟んで田平町と対面する位置に平戸港が所在する。中之館跡は、その平戸港の西側に位置し（第1図）、その反対側には平戸市役所とその背後に亀岡城が所在する。中之館跡の北側には松浦史料博物館があり、その北西の山中には中世の山城である館山城跡がある。平戸港の北には国指定史跡平戸和蘭商館跡がある。



中之館跡位置図〔平戸〕（S=1/25,000）

調　査

この中之館跡は、慶長10年代の松浦隆信の時代の江戸初期に平戸藩の政庁兼藩主の私邸であったという。

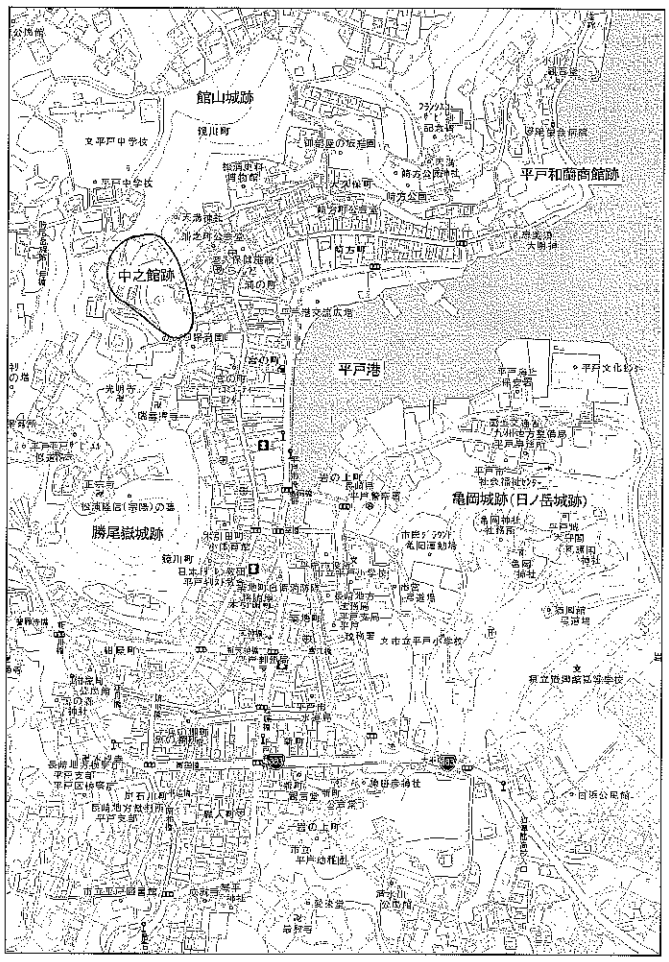
中之館跡全域は、保健所跡地の広い敷地を含んでいるが、今回の対象地は、その保健所跡地を一段目とすると、その後背地となる二段目と三段目のやや狭い敷地である。

遺跡遠景

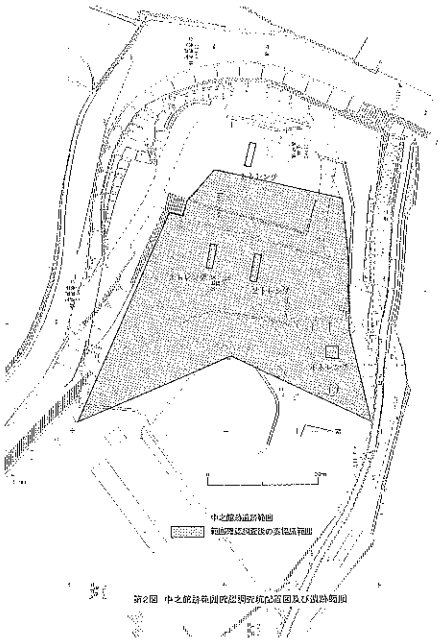
範囲確認調査の試掘坑を4箇所設けて実施した。1トレンチは湧水があり攪乱層で状況は良くなかった。2トレンチは、客土である表土層（1層）の中から近世陶磁器とともに、中世の中国製輸入陶磁器である鎬手蓮弁紋碗の青磁と白磁等が出土し、その密度も高い。地表下1m程でコンクリートの基礎部分を確認した。2層からも遺物が出土し、近世陶磁器と中世の青磁・白磁等が出土する。3層は、近世陶磁器が混じらない中世の包含層である。3層東側の黒色土は、産地不明の耳付壷等が出土したが、何かの遺構に関係しているのかもしれない。3、4トレンチからも、近世陶磁器と中世の青磁や白磁等が出土した。

今回の調査では、中国産の青磁・白磁、景徳鎮産明染等が認められた。砧青磁等の上物もある。国内産では西彼杵半島産の滑石製石鍋、土師器、他に陶器等がある。近世のものでは、陶磁器、瓦などがあり、時期不明のもので耳付壷、瓦質土器、黒曜石等がある。各トレンチ別の出土数では、2トレンチが圧倒的に多かった。出土した遺物から初現は古代末まで遡ると思われ平戸の古代末から中世の歴史解明のためにも貴重な遺跡である。

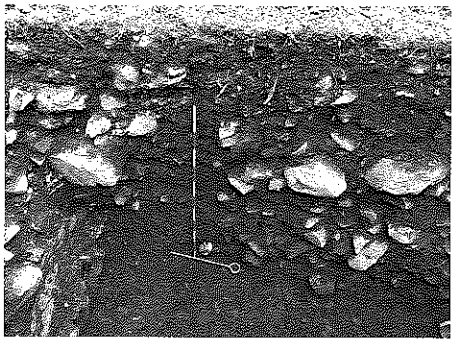
【調査・文責：村川】



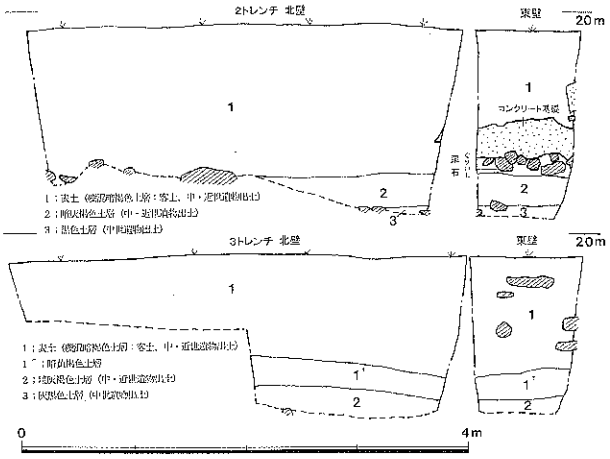
中之館跡位置図



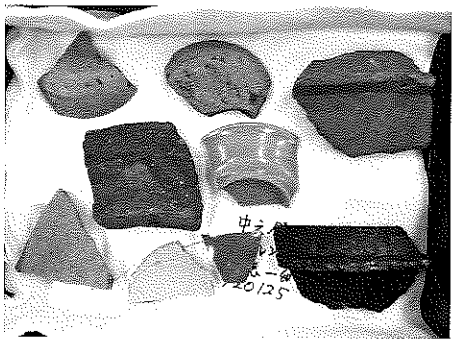
トレンチ配置図



２トレンチ北壁



土層図



２トレンチ３層の出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう20
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報20
副書名	平成23年度調査分
巻次	
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	8
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒811-5322　長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触５１５－１　TEL0920(45)4080
発行年月日	2013年３月31日

所収遺跡名	所在地	遺跡コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町	遺跡番号		㎡	
原の辻遺跡	壱岐市芦辺町	42210	424	20110526～20111226	850㎡	保存
尾和谷城跡	諫早市下大渡野町	42204	105	20110418～20110630	1,594㎡	鉄道
岸高遺跡	大村市中里町	42205	171	20110425～20110428	12㎡	鉄道
竹松遺跡（試・範）	大村市竹松町	42205	086	20110703～20110908	257㎡	鉄道
竹松遺跡	大村市竹松町	42205	086	20111107～20120302	1,500㎡	鉄道
久留里遺跡（範）	西彼杵郡時津町久留里郷	42308	005	20110516～20110603	60㎡	宅地
久留里遺跡	西彼杵郡時津町久留里郷	42308	005	20111003～20111130	310㎡	宅地
葛瀬遺跡（試・範）	五島市玉之浦町	42211	084	20111017～20111102	80㎡	農業基盤
今福遺跡	松浦市今福町仏坂免	42208	098	20110615～20120220	6,600㎡	道路
中之館跡	平戸市鏡川町	42207	071	20120123～20120127	16㎡	その他

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第８集

長崎県埋蔵文化財調査年報20
［平成23年度調査分］

2013. 3.31

発　行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町2番13号